

2011CFAアカデミー トレーニングメニュー

地区	第 8 ブロック	日時	11月27日 8:30～12:00
担当	川野辺 孝(塩浜中)	会場	市川市立塩浜中学校
参加スタッフ	川野辺 孝(塩浜中)鈴木 勉(浦安中)山田 淳(高谷中)後藤 拓真(富岡中)宮村 正志(三井東葛JY)鈴木氏(東海大浦安高校)		
テーマ	素早い判断をしよう! ①OFFのときの判断 ②ONのときの判断		
指導方法			
<p>W・UP</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手つなぎ鬼ゲーム ・パス回し (ビブスを付けて順番を変えて) ・ヘディングでのパス回し ・ストレッチ等 ・市川三中とのトレーニングマッチ (25分×4本) ・クーリングダウン 			
キーファクター			

報告事項

(トレーニングの感想、課題、次回の活動、気になった選手等、報告事項がある場合に入力)

*選考後初の活動となる今回は、市川三中Aチームとのトレーニングマッチを実施した。市川三中は過日行われた県中体連新人大会でベスト4に残ったチームで、トレセンメンバーの対戦相手としては申し分ないレベルにある。特に前線からのプレスも速く、今回のテーマでトレーニングするには最適であった。

*選手たちには、今回のテーマである「素早い判断をしよう」という声かけをアップ時点から声かけをしていった。

試合の中では、相手のプレスが速い中でまずはどういうプレーができるかを見た。1本目はその速いプレスに合わせて速くプレーしようとする意識が強すぎて、窮屈なサッカーになってしまった感があった。

試合の中では、相手のプレスが速い中でまずはどういうプレーができるかを見た。1本目はその速いプレスに合わせて速くプレーしようとする意識が強すぎて、窮屈なサッカーになってしまった感があった。

ハーフタイム等で、特にOFFのときにどうすればよいか。スペースの使い方、体の向き、動き出すタイミング等のヒントを与えた結果として、2本目以降は、徐々に相手のプレスをうまくいなすプレーが増えてきた。

印象としては、足元の技術がしっかりしている選手が多いので、顔が上がり、良い準備ができるようになってきたと思う。選手個々のプレースタイルも少しずつ理解できてきたので今後につなげたい。

今回の反省

*活動後にスタッフミーティングを行い、問題点を抽出した。

①判断のスピード=プレーのスピードと捉えてしまう選手がいたこと。ボールをダイレクトではなく、スピードに乗ったドリブル…等を速い判断と考えてプレーした選手がいたこと。その結果として、オーバースピードになってしまったり、プレーテンポに緩急がなくなってしまったこと。

②顔を上げているが、味方選手だけを見て判断していること。相手選手を見て判断ができていない(ONにもOFFにも言える)。

③テーマとは外れるが、GKの発掘・育成が不足していること。

上記の問題点をクリアしていくために、今後取り組むべきこととして以下のことが挙げられた。

①声かけのタイミング、細かさ、そして言葉そのものの質(同じ意味でも選手の中に浸透しやすい言葉)を考えなければならない。

②あくまでも速い判断とは、早い時点でプレーを決めつけてしまうことではなく、イメージを持った中でギリギリのところでの判断であるということを浸透させる。

③選手がテーマを意識してプレーできているかどうかを、どういう形で評価していくか。

④ON、OFF、ボールを奪った(奪われた)瞬間という、それぞれの局面での判断ができるようなトレーニングを実践する。

⑤GKを多く招集し、トレーニング(技術講習会)等を開催する。

*以上のことを今後の活動にリンクさせていきたいと考えている。